

2009年6月28日

## 週間マーケットレポート122

本レポートに掲載されている内容は保証されるものではなく、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。個別銘柄の選択及び投資判断の最終的な決定は自身の自己責任による判断で行うものとし、投資資産における運用の結果生じた損害の全部若しくは一部について一切の責任及び負担を負わないものとします。また掲載されている内容は、予告なしに変更することがあります。

当社が提供するすべての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。

商号等 マーケットクルー投資顧問 関東財務局長（金商）第1058号

### ご留意点(リスク等)について

国内上場有価証券等には株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の価格の変動等および有価証券の発行者等の信用状況(財務・経営状況を含む)の悪化等それらに関する外部評価の変化等を直接の原因として損失が生ずるおそれ(元本欠損リスク)があります。

なお、信用取引を行う場合は、対象となる有価証券の価格変動により損失の額がお客様が差入れた委託保証金の額を上回るおそれ(元本超過損リスク)があります。



## 目次

### 今週の要点

- ①日経平均ふんばる
- ②トヨタ、休日出勤再開へ

### 今後の展望

#### 腰が強い株式市場

#### 市場の全体感

#### 注目銘柄フォローアップ

### 今週(22~26日)の相場概況

今週のアメリカ市場は、引き続き景気が本当に好転するのを探る動きが続いています。またFOMCが開催されており、そこでは明るい見通しが示され、景気回復シナリオで経済がすすんでいます。

日本の市場では日経平均が移動平均をわれ、上昇がストップするかどうかの瀬尾際にきましたが、なんとか切り返しています。新興市場は高値で調整を続け、フラットな動きでした。

**①日経平均ふんばる**

今週は市場参加者の見方がわかる週になりました。  
 株価が移動平均をわってきたことから、調整入りを思わせる場面もありましたが、そこから急速に反発。

前回は移動平均をわり、下げるとみせかけ上昇、今回もそのようなパターンとなりました。


**②トヨタ、休日出勤再開へ**

トヨタ自動車が休日出勤を再開するとしており、明るい材料として市場で好感されています。

受注が好調なプリウスをうけての今回の休日出勤ですが、他のメーカーでは週休5日という異常事態があったことを考えると逆の世界であり、自動車セクター回復の兆しとしてとらえられた面もありました。



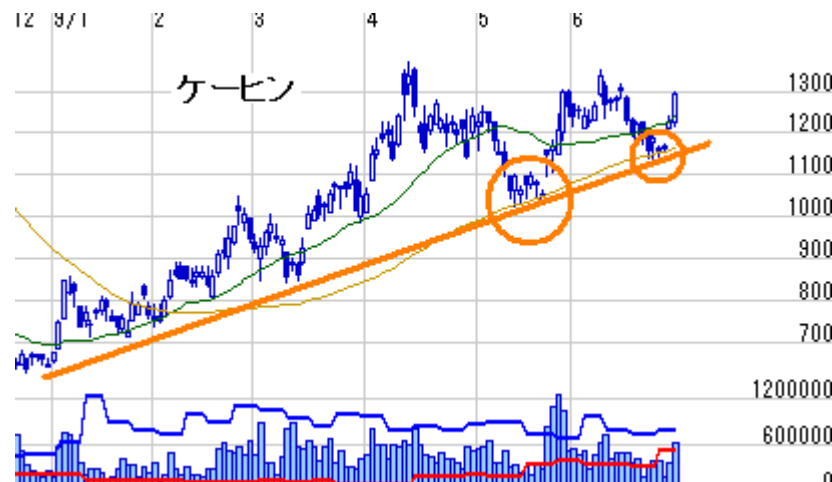


株式市場は腰が強いといえます。  
日経平均が先日、1万円を回復し、調整してきたわけですが、市場に力がなければ、移動平均をわってすぐに切り返すというのは考えにくいからです。

アメリカ市場よりもこの切り返しは強いといえますが、これはトヨタなど自動車セクターが回復しつつあることが相場をあたためているといえます。

多くの自動車メーカーは生産台数の落ち込みが減少しており、実態面で底打ち反転しつつあります。

それを反映してか、ホンダ最大の部品会社ケーヒンは移動平均にてきっちり反発してきました。

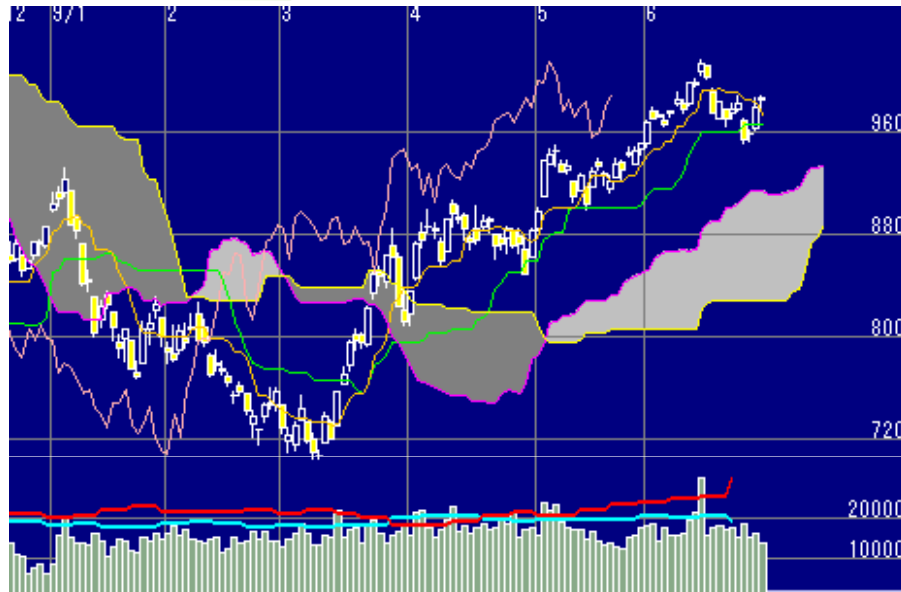


市場の中でも自動車セクターは存在感あり、相場の腰つきをみるには、このセクターの強さをみるのが今のところよいでしょう。

自動車セクターは強いため、相場全体も強いという判断です。



日経平均



マザーズ指数



### 東証について

すぐに1万円を大幅突破は難しく、1万円から9500円程度のボックスが続くと想定。

もみあった後に1万円突破になるとみますが、それにはもう少し時間が必要。

### 新興市場について

新興市場は強いといえます。  
高値でもみありますが、上にさらに離れるのも時間の問題とみまます。